

# 使役から受身へ—“让”構文における統合的關係の諸相

## From Causative Voice to Passive Voice : The Various Phases of Integration about “Rang 让” Constructions

高 謙  
Gao Qian

**Abstract :** Although there are different semantics and functions between causative voice and passive voice, they could be expressed by a similar form with “Rang 让” construction in Chinese. Despite the likeness of their external forms, there are many diverse inherent formulations among them. This paper would contrast the different integration of “Rang 让” constructions concretely, and attempt to find out the motivation why “Rang 让” construction could indicate passive function actually.

**キーワード :** 使役 受身 融合 “让” 構文 意味指向

**Key word :** causation passive fusion “Rang 让” construction semantic orientation

### 1. はじめに

使役態と受動態はともに文の基幹構造としての格関係を示す。いずれも「ヴォイス(態/voice)」の範疇に属しているものの、当然のことながら、異なる意味と文法的機能をもっている。同じ標識や接辞助詞によって使役文と受身文を表す言語は多く存在し(例えば、トンシャン語、満州語、トゥー語やシボ語など(橋本 1987 : 45))、現代中国語の“让”も同様の兼用機能をもつことが認められている。

例えば、以下の“让”構文では、例(1a)は「使役者“知識”が被使役者“人”の状態変化“更有魅力”を誘発した」という因果関係を表すのに対して、動作対象である“徐大娘”を主語とする例(1b)では、「“徐大娘”が動作主“人”からの動作“打”を受けて被害を受けた」という受身文を表す。例(1a)と(1b)のいずれも“N<sub>1</sub>+让+N<sub>2</sub>+VP”という構造で表されており、形式的な差異によって両者を区別することは難しい。

(1) a.这说明知识让人更有魅力。 【使役】(CCL・《梁冬对话罗大伦》)

[これは、知識が人の魅力をさらに高めることができることを示している]

b.徐大娘让人打死了。 【受身】(CCL・《作家文摘》)

[徐おばさんは人に殴り殺された]

単に意味の角度から見れば、「使役」と「受身」の両範疇の間には、意味的類似性を認めることができる。例えば、以下の例(2)を、許可・放任を表す使役文として理解する場合、被使役者“小王”が“打”という行為を遂行することを使役者“小红”が許可、ないし放任する(阻止しない)ことを表す。一方、これを受身文として捉える場合、動作対象“小红”が動作主“小王”の動作“打”に対して抵抗せず(或いは、抵抗しようとしてもできず)、消極的にこれを受けて影響を与えられたことを表す。

(2) 身边围了那么多人,小红就只让小王打了。 (作例)

[そばに人がいっぱい取り囲んでいたが、紅さんは王さんだけに殴らせた] 【使役】

[そばに人がいっぱい取り囲んでいたが、紅さんは王さんだけに殴られた] 【受身】

つまり、「 $N_2$ 自らの動作  $V$  に対して  $N_1$ は何もしない」というのは例(2)において「使役」と「受身」の二通りの解釈が可能となる共通の意味素性である。その上で、 $N_1$ が $N_2$ の動作  $V$ に対しても「何もしない」場合、許可・放任を表す使役文であると解釈され、反対に非意志的に「何もしない」場合、放任の使役や受身文として理解される。このように、例(2)は「使役」と「受身」に再分析(reanalysis)することができるのである。

「使役」と「受身」の意味特徴を検討し、その間の類似点を論じる先行研究としては、木村 2000、洪波・赵茗 2005、屈哨兵 2008、项开喜 2011、史金生 2017 などが挙げられる。しかし、言語そのものは形式と意味の結合体であり、構文化や文法化、語彙化などの言語変化という現象は、多くの要素によって複合的な影響を受けて導かれたものである。そのため、「使役」と「受身」を兼用する現象を意味的観点からのみ解釈するのは充分ではない。“让”構文に「使役」と「受身」といった多義を生じさせる原因を究明するには、意味と形式の対応関係を根拠として論じなければならない。

## 2. 先行研究

“让”構文は“ $N_1$  + 让 +  $N_2$  + VP”の形式で表される。マーカー“让”の位置は固定されており、 $N_2$ は動作行為  $V$  の主体に限られるといった統語的・意味的制約がある。また、“让”構文は例(1a)(1b)で見たような多義性があり、表面的な構造は似ているものの、「使役」や「受身」といった異なる意味と機能を読み取るには、文成分や文脈に依存する度合いが高い。

高謙 2018 では先行研究に基づき、“让”構文が表す使役を「指示使役」、「許可使役」、「誘発使役」、「放任使役」の四種類に分けている。許可・放任を表す使役の意味は“让”が受身に拡張する前提であるため、「誘発使役」しか表せない“使”や“令”は受身文に用いられない。これはつまり、許可・放任が受動的に触発される性質を有することを示唆している。しかし、「 $N_2$ 自らの動作  $V$  に対して  $N_1$ は何もしない」という意味的基礎は、“让”構文の機能的拡張を導いた一要素であり、唯一の動機付けではない。文には意味と形式があり、D.ボリンジャー 1981 : xvi が言語における「意味と形は一对一の対応関係」(one form for one meaning, and one meaning for one form)であると述べているように、異なる意味が含まれる二つの文は、その文構造が必ず異なる。それ故、例(1a)(1b)で示したように、「使役」と「受身」を表す“让”構文の表面構造は一見類似しているものの、その深層的な統合的關係は異なると考えるのが妥当であろう。

本稿は先行研究の意味分析に基づき、許可・放任使役文と受身文を主な考察対象として、“让”構文が受身機能を獲得する過程において、使役文と受身文の間にどのような相違点が存在し、どのような連続性を示すのか、また、どのような統語的動機付けが“让”構文に脱範疇(decategorization)の現象を生じさせるのかについて検討していく。

## 3. “让”構文に関する統合的關係

通常、文は線状的に展開されるが、その表す意味は必ずしも文を構成する各要素の意味の総和に相当するわけではない。似通った構造によって異なる意味を表す“让”構文の中には、異

なる統合的關係が存在している。仁田 2005 : 53 は、述語の機能について、「動きや状態や關係を表す、といった語彙的意味を有し、文構成の中核として働き、第一次の主要素として、自らに従属してくる諸成分をまとめ上げ、事態の核を形成する」と述べ、文の意味や機能に対する述語成分の重要性を指摘している。一般に述語成分には動詞や形容詞が用いられるが、次の例(3a)(3b)では、述語成分と見なせる語彙項目はそれぞれ①②③と④⑤⑥の三箇所ある。

(3) a. 我①想她应该早就②回国③结婚了吧。 (作例)

[彼女はとっくに帰国して結婚したはずだと思います]

b. 他④带着两个女儿⑤开车⑥回了一趟老家。 (作例)

[彼は二人の娘を連れ、運転して一回実家に帰った]

例(3a)(3b)は、いずれも複数の述語を含む文であるが、文の統合的關係は同じではない。例えば、例(3a)の節“她应该早就回国结婚了”は、述語“想”に対してその「思う」内容を補充し、間接的引用という機能を果たす。一方、例(3b)の節“带着两个女儿”と離合詞“开车”は、主節<sup>1</sup>の事態“回了一趟老家”に付随して行われたことやそれが実現する手段や方式を示しており、省略されても文は成立する。つまり、例(3a)と(3b)は複数の節で組み立てられ、階層的(hierarchical)な構造であると見なすことができる。各節は互いに等位關係ではなく、主節と従属節に分けられ、異なる主従關係と統合關係によって異なる意味や機能を生成させる。

中国語は形態変化に欠け、英語や日本語のような従属節マーカーが存在しないが、意味や統語的特徴によって各種の主従關係を見出すことができる。以下では、使役や受身を表す“让”構文の中に見られる節の統合的關係を考察しながら、それらの主従關係の相違について考察していく。

### 3.1 許可使役文

「許可使役」文は以下の例(4a)のように、被使役者“我”が望む動作“上楼”を遂行することを使役者“保安”が許可するイベントを述べる構文である。

(4) a. 来到了宾馆，在被保安一阵盘查后，终于让我上楼了。

【許可使役】(BCC : 方博《桃花运》)

[ホテルに着き、ひとしきり守衛に取り調べられてから、(守衛は) やっと階段を上ることを許してくれた]

b. ……，保安终于{允许/同意/赞成/准许}我上楼了。 (作例)

c. ……，保安终于让我上楼了，但我却没上去。 (作例)

[守衛はやっと階段を上ることを許してくれたが、結局私は上らなかった]

例(4a)の“让”は言語行為<sup>2</sup>としての「許可」を表し、具体的な動作を指し、実質的な意味をもっているため、例(4b)のように“允许”“同意”“准许”などの動詞に置き換えることができる。また、“让”が要求する二つの項、 $N_1$ と $N_2$ は常に有情物でなければならない。 $N_2$ の後ろのVPは、主に許可する内容を補充して説明する機能を果たし、実現済みの事態だけではなく、例(4c)のように非現実性の事態としても捉えることができる。それ故、例(4a)の $N_2$ VPは言語行為に対する補足内容であり、“让”こそが主節の動詞であると見なすことができる。

### 3.2 放任使役文

「放任使役」文は以下の例(5)のように、被使役者“宝宝”による自発的動作“睡下去”に対して、省略された使役者“父母”が黙認・放任していることを表す。前節で示したように、「N<sub>2</sub>の動作Vに対してN<sub>1</sub>は何もしない」という意味特徴を共に有するという点において、「許可使役」と「放任使役」は類似している。

- (5) 早产或体重低的宝宝，觉醒能力差，如果一直让宝宝睡下去，有可能发生低血糖。

【放任使役】(BCC：《科技文献》)

[早产や低体重の赤ちゃんは、目覚める能力が弱いため、(親が)ずっとそのまま寝かせておくと、低血糖になる恐れがある]

相違点と言えば、「放任使役」では「許可使役」で見られるような言語行為を伴わず、以下の例(6a)(6b)の“敌机”“日本的东珠”“西欧的西珠”のような無情物をN<sub>2</sub>に用いることができる。また、N<sub>2</sub>の動作Vは「実現済みで、且つ持続中」という意味的束縛が課されている。

- (6) a.我空军人员驾机截杀不及，只得让敌机在汉口武昌汉阳三镇的天空任意投弹，结果炸毁房屋无数。

【非自発】【放任使役】(BCC：龙应台《从石狮子出发》)

[我が空軍が戦闘機に乗って食い止めるには間に合わず、敵機の思うままに漢口、武昌、漢陽三町の上空で投弾され、爆破された建て物は数え切れない]

- b.他出生在南珠的故乡，……在那“左”的年代，珍珠养殖业举步维艰，发展缓慢，产量极少，只好眼看着让日本的东珠和西欧的西珠占领世界珍珠市场。

【非自発】【放任使役】(BCC：福建日报 1997.7.11)

[彼は「南珠」の里で生まれたが、……あの過激な時代では、真珠養殖業は足取りが重く、発展が遅くて生産量も少なく、日本の「東珠」と西欧の「西珠」が世界市場を占領しているのを見ているしかなかった]

一般的には意志的に行われる許可や放任に対して、以上の例(6a)(6b)は、使役者が被使役イベントを阻止しようとしても阻止できなかったことを表している。被使役イベントは実現済みの事態であり、使役者が「止む無く、非自発的に」そのまま受け入れたケースである。この場合、使役者の意志と行動が合致しないため、被使役者の動作は使役者にとって望ましいことではない。つまり、使役者は被使役者により間接的に迷惑を受けたことになり、ここに被害義が生じる。先に述べたように、「放任使役」を表す“让”構文においてN<sub>2</sub>の使用範疇は「許可使役」より拡大されており、それと同時に、“让”の動作性(kinesis)も弱くなり、その実質的な意味は希薄化している。従って、例(7a)(7b)のように否定副詞“不”とは共起しにくくなる。

- (7) a.??……，不让敌机在汉口武昌汉阳三镇的天空任意投弹，……。 (作例)

- b.??……，不让日本的东珠和西欧的西珠占领世界珍珠市场。 (作例)

「放任使役」は例(5)のように意志的に行われる場合がある一方で、例(6a)(6b)のような主語N<sub>1</sub>にとって非意志的に行われるイベントも存在し得る。「使役者からの放任が原因で被使役イベントが実現された」のか、「被使役イベントが実現されたのを使役者は「放任」するしかなか

った」のか、いずれにも読み取ることができる。例(5)(6a)(6b)において、使役者“父母”“我空军人员”“他”がなくても、“宝宝”“敌机”“日本的东珠”“西欧的西珠”は自発的に動作を行う意図や傾向があり、即ち、 $N_1$ からの放任と  $N_2V$  の間の因果関係は弱く、使役者の存在に拘わらず結果事象が生じる。「放任使役」においては、実現済みの主節  $N_2V$  の存在は  $N_1$  の放任が成り立つ前提であり、 $N_1$  の放任は  $N_2V$  に付随して成立する付帯状況である。つまり、“让”の意味が希薄化していると同時に、被使役イベント  $N_2V$  の結果性や具象性を際立たせているのである。

### 3.3 受身文

前節で述べたように、“让”構文は使役の意味を表す時に多義性が生じる。また、複数の使役タイプは、互いに独立しているのではなく、その間に強い連続性が見られる。それに対して、“让”構文が受身を表す時、文の意味は単一になり、文脈に依存する程度は低い。以下では、“让”構文が受身の機能を獲得する動機付けについて考察していく。

次の例(8a)(8b)は、いずれも実現済みのイベントを表し、被害義が読み取れる。しかし、例(8a)の被害義は文脈（“遇到下雨天”という背景を述べる部分や副詞“只好”）に依存するものであり、この時、“让”は受身のマーカー“被”に置き換えることはできず、受身文とは言えない。一方、例(8b)が表す被害義は文脈がなくても読み取れる。この場合、“让”は“被”に置換することができ、受身文と見なすことができる。

- (8) a.农民们……，缺乏知识，单纯追求粮食产量，结果收了玉米，又遇到下雨天，只好让玉米杆烂在地里。 【非自発】 【放任使役】(BCC・《科技文献》)

[農民たちは……、知識が乏しいため、単純に食糧の生産量だけを追求し、結局玉蜀黍を収穫したのち、雨天に遭い、玉蜀黍の茎が地中で腐るのを見ているしかなかった]

- b.脚底让玉米杆扎破了，手也破了。

(→被) 【消極的】 【受身】(<https://www.jiankang.com/ask/26406471.shtml>)

[足の裏が玉蜀黍の茎に刺され、手も傷ついてしまった]

例(8a)(8b)の構造を比較すると、共に“ $N_1 + \text{让} + N_2 + VP$ ”の形式で表現され、動作“烂”“扎”は  $N_2$  “玉米杆”により自発的に実現されている。“ $N_2 + VP$ ”が独立して用いられるのは使役文が成立する前提であるが、例(8a)の“玉米杆烂在地里”は単独で文となるのに対して、例(8b)の“玉米杆扎破了”は単独では用いられない。また、例(8a)の  $V$  に後置する補語“在地里”の主体は  $N_2$  “玉米杆”であるのに対し、例(8b)の主語“脚底”は無情物であり、補語“破了”が指し示す主体は  $N_1$  “脚底”である。従って、例(8a)(8b)の表層構造は類似しているものの、深層構造は同じではない。

以下の例(9)の a~d で示すように、“让”構文が使役を表す時、 $V$  の後ろには補語成分が任意的 (optional) に付加され、 $N_1$  や  $N_2$ 、またはそれ以外の名詞性成分のいずれも指向することができる。

- (9) a.老师让小王滚。 (Ø) 【使役】(作例)

[先生は王さんに失せろと言った]

- b.老师让小王跟紧点。 (意味指向→ $N_1$ ) 【使役】(作例)

[先生は王さんにぴったり後ろについて来いと言った]

c. 老师让小王滚远点。

(意味指向→N<sub>2</sub>)【使役】(作例)

[先生は王さんに遠くへ失せろと言った]

d. 老师让小王抬高点。

(意味指向→N<sub>1</sub>、N<sub>2</sub>以外)【使役】(作例)

[先生は王さんに高く持ち上げろと言った]

これに対して、以下の例(10a)(10b)は受身を表し、“让”を“被”に置換することができる。“死”“垮”の指し示す主体はいずれもN<sub>1</sub>“小红”“房屋”であり、この時、“让”の意味はさらに希薄化しており、置き換えられる動詞もなく、実質的な意味も読み取れない。また、これと同時に、名詞性成分N<sub>1</sub>やN<sub>2</sub>の使用範疇は広がっており、有情物でも無情物でも用いられる。“让”はフレーズN<sub>2</sub>Vの前に置かれて連用修飾成分を構成し、“让N<sub>2</sub>V”は後ろの動詞を修飾するのに用いられていると考えることができる。

(10)a. 小红让小王打死了。

(→N<sub>1</sub>)【受身】(作例)

[紅さんは王さんに殴られて死んだ]

a'. 小红死了。

(作例)

[紅さんは死んだ]

b. 房屋让洪水冲垮了。

(→N<sub>1</sub>)【受身】(作例)

[部屋は洪水に流されて崩れた]

b'. 房屋垮了。

(作例)

[部屋は崩れた]

つまり、例(10a)(10b)において“让小王打”“让洪水冲”は具体的な実現方式として、結果や状態を表す“死了”“垮了”を補充していると考えるのである。文の構造から見れば、“死”“垮”は“打”“冲”の補語(complement)として示されているが、主語N<sub>1</sub>の“小红”の述語(predicate)であるとも考えられる(以下ではこのような成分をCP<sub>1</sub>と呼ぶ)。“让”の機能語化の程度が高くなるに従い、主に動作主N<sub>2</sub>を導く前置詞に類似した機能を果たす。それと同時に、CP<sub>1</sub>“死”“垮”は強制的(coercion)に生起し、指向先もN<sub>1</sub>に固定されている。

無論、以下の例(11a)(11b)のように、形式上で動詞“砍”“偷”の後ろにCP<sub>1</sub>がない受身を表す“让”構文も存在する。文末に助詞“了”が付加されているが(強制的で、受身文としては省略できない)、構造から見れば、例(10a)(10b)のような主体“小红”の状態変化を述べる成分は示されていない。

(11)a. 小红让人砍了。

(作例)

[紅さんは人に斬られた]

b. 小红的包让人偷了。

(作例)

[紅さんのカバンは人に盗まれた]

例(11a)(11b)の“了”は他動詞“砍”“偷”の後ろに付加され、且つ、文末に位置する。それと類似する表現として、“把它扔了吧! [それを捨ててしまいなさい]”のような文について、丸尾 2010: 123 では、「この“了”は「～してしまう」という結果補語に近いものだといえま

す。“V了”の形でこの意味を表せる動詞として、“扔 rēng [捨てる]、杀 shā [殺す]、卖 mài [売る]、丢 diū [なくす]、吃 chī [食べる]、忘 wàng [忘れる]、脱 tuō [脱ぐ]、还 huán [返す]、退 tuì [返す] など”(対象の)除去・消失を表すものが挙げられます」と指摘している。すなわち、例(11a)(11b)の“了”もこれと同様、結果補語“了 liǎo”に相当する働きをもち、動作の完了且つ主体の状態変化を表す機能を果たしていると考えることができる。以上の“扔”“杀”“卖”“吃”のような動詞は単に動作を表すだけではなく、動作の結果や引き起こした影響(除去・消失・不完全になることなど)も内包されている。それ故、“扔了”“杀了”“卖了”“吃了”の間に補語を補充することができ、“扔掉了”“杀死了”“卖掉了”“吃掉了”といった形になっても意味は変わらない。一方、これと類似する動詞“买 mǎi [買う]”“尝 cháng [味わう]”は結果性や影響性を含まないため、例(11a)(11b)のような受身文には用いられない。動詞“扔”“杀”“卖”と補語“掉”“死”はいずれも閉じたクラス(closed class)に属しており、それぞれ数は有限である。受身を表す“被”構文と“让”構文では、N<sub>2</sub>の後ろのVによく他動詞が用いられるが、“V<sub>他動</sub> + 了”というセットは完了、実現された事態だけではなく、動作を受けた後の状態変化に伴い、イベントの主体N<sub>1</sub>が部分的或いは全体的、直接的或いは間接的な影響を受けたという意味にも捉えられる。つまり、例(11a)(11b)は形式から見れば、CP<sub>1</sub>として見なす成分が存在しないものの、その結果性や影響性は動詞“砍”“偷”の中に内包されているのである。

CP<sub>1</sub>はN<sub>1</sub>の述語成分であるが、形式から見れば、前の動詞Vと合わせて動補構造を構成し、一つの因果関係を述べている。結果や状態変化を引き起こすため、動詞Vには他動性の高い動詞が用いられる場合が多く、CP<sub>1</sub>にはN<sub>1</sub>の状態を述べる自動詞が用いられ、受影性<sup>3</sup>の制約(affectedness constraint)に束縛されている。この受影性はN<sub>1</sub>がコントロールすることはできないため、常に実現済みの形で表され、被害義や意外義などの語用的意味として理解される場合が多い。

### 3.4 受影性成分の束縛

現代中国語の“被”構文は典型的な受身文であり、“让”構文はそれと類似する機能をもつことから、“让”と“被”が自由に置き換えられる例文は少なくない。しかし、以下の例(12)a~cでは、いずれも“被”構文が用いられているが、この時、“让”に置換することはできない。

(12)a. 黄山、武陵源、九寨沟、黄龙等风景名胜区被联合国教科文组织列为世界自然与文化遗产。

(\*让)(CCL・《中国政府白皮书》)

[黄山、武陵源、九寨沟、黄龙などの名所旧跡はユネスコによって世界複合遺産に登録された]

b. 这个海拔 2000 多米的小城被人称作“高原水乡”。 (\*让)(CCL・新华社 2001.10.10)

[標高が 2000 メートルぐらいであるこの小さな町は「高原の水郷」と呼ばれている]

c. 然而这些企业还被政府授予各种荣誉称号，授予各种奖励。

(\*让)(CCL・1994 年报刊精选)

[しかし、これらの企業はまた政府に各種の名誉称号を与えられ、色々な賞を授けられた]

例(12)a~cにおける“列”“称”“授予”は他動性の低い動詞であり、後ろの“世界自然与文化

遺産” “高原水乡” “各种荣誉称号”は  $N_1$  に関する受影性成分とは理解しがたい。先に述べたように、 $CP_1$  が用いられ、且つその意味は主語  $N_1$  を指向することが“让”構文が受身を表す条件であるため、例(12)a~c は“让”に置き換えられないのである。

### 3.5 語彙と構文の相互作用

“让”構文が受身の機能を果たすのは、第2節で示したように許可・放任使役を表し、「 $N_2$  自らの動作  $V$  に対して  $N_1$  は何もしない」という意味を基礎とした上で、構文“ $N_1 + \text{让} + N_2 + V + CP_1$ ”に用いられることによって実現させた結果であり、いわゆる「融合(fusion)」<sup>4</sup>の現象である。従って、以下の例(13)(14)のように、 $N_2$  や  $CP_1$  が省略された文では“让”は受身機能を表せない。

(13) 只要有你在，被打被骂我都不怕。 (\*让)(作例)

[君がそばにいてくれさえすれば、殴られたり罵られたりしても私は怖くない]

(14) 他被杀的消息传到了家乡。 (\*让)(作例)

[彼が殺されたという知らせが故郷に伝わってきた]

例(13)(14)で示すように、動作対象  $N_2$  が省略され、裸動詞と共起できるなど、統語的に比較的自由である“被”と比べ、“ $N_1 + \text{让} + N_2 + V + CP_1$ ”という形式に依存して受身を表す“让”は典型的な受身マーカであるとは言えない。

## 4. おわりに

“让”構文は“ $N_1 + \text{让} + N_2 + VP$ ”という形式をとることによって、使役や受身を表すことができる。“让”構文は一見同じ構造で示されるものの、その統合的關係は異なるため、使役と受身という異なる範疇をカバーし、使役範疇の内部においても複数の使役関係を表現し得る。本稿で指摘した内容をまとめると、以下の3点が挙げられる。

① “让”構文が「許可使役」を表す時、“让”は言語行為としての「許可」を表し、遂行動詞（実現済み）として用いられ、二つの必須項（ $N_1$  と  $N_2$ ）を支配する。後ろのフレーズ  $N_2 VP$  は許可する内容を補充することを主な機能としている。

② それに対して、“让”構文が「放任使役」を表す時、後ろのフレーズ  $N_2 VP$  は実現済みで、且つ持続中の形で用いられる。「放任」を表す“让”の意味は希薄化し、動作性が低くなり、 $N_1$  からの放任は  $N_2 VP$  に付随して成立する付帯状況である。

③ “让”構文が受身文を表す場合には、“让”は機能語化の程度がさらに高くなる。 $CP_1$  は当該形式において強制的成分であり、表面的には  $V$  の補語であるが、深層的には  $N_1$  の状態変化を表す述語成分としての機能を担っている。 $CP_1$  は“让”構文が受身を表す統語的動機付けであると言える。

本稿では主に「許可使役」「放任使役」「受身」を表す“让”構文の構成的特徴を考察した。文は意味と構造の結合体であるため、類似的な構造で示されるが、使役から受身へ拡張する再分析の過程では、以上の①②③で述べたように、異なる意味を表す“让”構文の中には、異なる主従と統合的關係が存在している。ここまでの考察で見てきたように、許可使役文の主節動詞は“让”である。一方、放任使役文の主節動詞は  $V$  であり、受身文においては、 $CP_1$  が主節



許可使役文：N<sub>1</sub> + 让 + N<sub>2</sub> + V(P)  
 放任使役文：N<sub>1</sub> + 让 + N<sub>2</sub> + V(P)  
 受身文：N<sub>1</sub> + 让 + N<sub>2</sub> + V + CP

以上の検討を踏まえ、今後の課題としては、㊤なぜ CP<sub>1</sub> が強制的成分として生起し、新しい構文を構成したのか、㊦どのような要素が影響を与え、“让”構文の主節動詞に関して右方移動の傾向を導いたのかという二つの点について追究していきたい。

- 1 主節 (main clause) は文の中心となる節であり、それに対して名詞や形容詞、副詞などに相当する機能 (主節の主語や目的語、補語、連体修飾語、連用修飾語など) をもつ節を従属節 (subordinate clause) と呼び、主に付随する情報を補充するものとして用いられている。趙元任 1979 : 165 では、連動文における各節の主従関係について論じている。
- 2 指示や許可、請求などのような、一般的に発話や文字によって表される動作を指す。
- 3 受影性の概念について、沈力 2011 : 6 では「対象主語は動作者から何らかの結果になるまで影響を受ける」と解釈している。
- 4 依存文法や格文法では、文の構造と意味は中心的動詞によって決定されるものであると考えられている。例えば、以下の例文 a では、三価動詞 put から主語、目的語、経路フレーズなどを推測することができる。つまり、置くもの the phone と前置詞フレーズ on the table のいずれも省略することができない。

(作例)

しかし、以下の例文 b に示すように、単に動詞から導かれない文も存在する。sneeze は自動詞であるため、目的語を取ったり「使役移動」を表したりすることは一般的に考えられない。

(A.E. ゴールドバーグ 2001 : 4)

例文 b について、A.E. ゴールドバーグ 2001 の提案によると、“主語＋動詞＋目的語＋経路フレーズ”という使役移動文は内容語（content word）のように、「ものを移動させる」意味をもっている。一方、使役移動文に入れられる動詞に制限がないわけではない。動詞 sneeze [くしゃみ] は「一回ないし数回痙攣状の吸息を行った後、急に強い呼息を発すること」（広辞苑・第 7 版 2018 : 829）という意味を表す。つまり、「空気を吹き出す」という意味素性があり、抽象的な使役移動とも見なすことができるため、使役移動文に用いられるのである。文の構造と意味は、動詞 sneeze と構文の相互作用（融合/fusion）によって決定されるものであると理解される。

## 参考文献

- A.E.ゴールドバーグ 2001. 『構文文法論』（河上誓作など訳）、研究社.
- 秋元実治 2002. 『増補 文法化とイディオム化』、ひつじ書房.
- L.テニエール 2007. 『構造統語論要説』（小泉保など訳）、研究社.
- 尾谷昌則・二枝美津子 2011. 『構文のネットワークと文法』、研究社.
- 木村英樹 2000. 「中国語ヴォイスの構造化とカテゴリ化」、『中国語学』247：19-39 頁.
- 高謙 2018. 「使役を表す“让”構文の意味及び各下位類の連続性」、『名古屋大学人文学フォーラム』1：189-202 頁.
- J.L.オースティン 1978. 『言語と行為』（坂本百大訳）、大修館書店.
- 沈力 2011. 「中国語の動作動詞における属性叙述の機能」、『中日理論言語学研究会第 25 回研究会発表論文集』、中日理論言語学研究会.
- 谷口一美 2005. 『事態概念の記号化に関する認知言語学的研究』、ひつじ書房.
- 張黎 2011. 「中国語における「動作－結果」の統語表現とその認知類型学的な解釈について」、『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』10：1-25 頁.
- 辻幸夫 2013. 『新編認知言語学キーワード事典』、研究社.
- D.ボリンジャー 1981. 『意味と形』（中右実訳）、こびあん書房.
- 外崎淑子 2005. 『日本語述語の統語構造と語形成』、ひつじ書房.
- 新村出 2018. 『広辞苑』（第 7 版）、岩波書店.
- 西村義樹・野矢茂樹 2013. 『言語学の教室－哲学者と学ぶ認知』、中央公論新社.
- 西村義樹 2005. 「第 1 章 認知言語学の文法研究」、『認知文法論 I』：3-24 頁、大修館書店.
- 日本語記述文法研究会 2008. 『現代日本語文法 6・第 11 部 複文』、くろしお出版社.
- 野矢茂樹 2002. 『同一性・変化・時間』、哲学書房.
- 仁田義雄 2005. 「I 基礎編・第 2 章・第 3 節 ヴォイス・アスペクト・テンス」、『日本語学を学ぶ人のために』玉村文郎編：52-73 頁、世界思想社.
- 深田智・仲本康一郎 2008. 『概念化と意味の世界』、研究社.
- 丸尾誠 2010. 『基礎から発展まで よくわかる中国語文法』、アスク出版社.
- 楊凱榮 1989. 『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』、くろしお出版社.
- 楊凱榮 2001. 「第 2 章 中国語の“了”について」、『「た」の言語学』つくば言語文化フォーラム編：61-96 頁、ひつじ書房.
- 何洪峰 2012. 『汉语方式状语』、中国社会科学出版社.
- 洪波・赵茗 2005. 〈汉语授予动词的使役化及使役动词的被动介词化〉、《语法化与语法研究》第 2 辑：36-52 页、商务印书馆.
- 梁银峰 2006. 『汉语动补结构的产生与演变』、学林出版社.
- 李永 2003. 〈“一个动词核心”的句法限制与动词的语法化〉、《河南师范大学学报（哲学社会科学版）》第 3 期：53-56 页.
- 马希文 1982. 〈关于动词“了”的弱化形式/·lou/〉、《中国语言学报》第 1 期：1-14 页.
- 桥本万太郎 1987. 〈汉语被动式的历史・区域发展〉、《中国语文》第 1 期：36-49 页.
- 屈哨兵 2008. 〈被动标记“让”的多角度考察〉、《语言科学》第 1 期：39-48 页.
- 沈家煊 2004. 〈动结式“追累”的语法和语义〉、《语言科学》第 6 期：3-15 页.

- 沈家煊 2006. 〈“王冕死了父亲”的生成方式——兼说汉语“糅合”造句〉、《中国语文》第4期：291-300页.
- 史金生 2017. 《语法化的语用机制与汉语虚词研究》、学林出版社.
- 谭雪纯 2011. 〈语用环境中的义位转移及其修辞解释〉、《语言教学与研究》第2期：69-76页.
- 唐正大 2006. 〈与关系从句有关的三条语序类型原则〉、《中国语文》第5期：409-422页.
- 王春辉 2014. 〈复句研究的国内范式与国外范式〉、《汉语学习》第3期：72-79页.
- 吴为善 2016. 《构式语法与汉语构式》、学林出版社.
- 项开喜 2011. 〈使成兼表被动现象的多角度考察〉、《世界汉语教学》第3期：291-303页.
- 姚尧 2018. 〈“意思”的意思——语义演变与语境吸收〉、《当代修辞学》第4期：64-75页.
- 张博 1999. 〈组合同化：词义衍生的一种途径〉、《中国语文》第2期：129-136页.
- 张伯江 2009. 《从施受关系到句式语义》、商务印书馆.
- 张国宪 2016. 《现代汉语动词的认知与研究》、学林出版社.
- 赵元任 1979. 《汉语口语语法》（吕叔湘译）、商务印书馆.
- Bolinger, Dwight 1977. *Meaning and Form*: Longman.
- Kimura, Hideki 1997. *漢語被動句の意義特徴及其結構上之反映*: Cahiers de linguistique - Asie orientale, vol.26, pp. 21-35.

### 例文出典

BCC (BLCU Corpus Center) : 北京語言大学コーパス.

CCL (Center for Chinese Linguistics PKU) : 北京大学漢語言語学研究センターコーパス.

